

INTERVIEW ●インタビュー

「自然を残す」という意識を持ってほしい

日ごろ、宮浦池の環境保全をテーマに活動している自然科学部の皆さんです。

宮浦池について、部長の坂野君を中心に話を伺いました。

▽宮浦池は、自然豊かで生息する生き物の数も多いですが、自然科学部にとって宮浦池とは？

坂野君 自然についてかなり調べやすい場所、おもしろいことが調べられる場所ですね。僕らが調べて分かったことは、宮浦池はコイ科の魚が多い。しゅんせつ工事前は、池の底が泥になっていましたが、コイ科の魚は下の方をついばむのが得意なんです。外来魚がないという本当に珍しい池で、研究してみてももしろい池だと思います。

樋口君 僕らがほかで見てきた池は、護岸がコンクリートで固められた池がほとんどですが、宮浦池は橋以外はほとんど人の手が加えられていないので、そういう意味でも自然のままの池だといえるのでは。

坂野君 ほとんどの池は護岸工事がされていて、安全の面からは工

が必要だと思いますが、生き物にとっては自然のままの場所というのは、いいところだと思います。このような場所を残していけるような活動が、僕たちにできればいいのではないかと思います。

▽宮浦池から異臭がすることについて、自然科学部では原因をつかんでいましたか？

坂野君 宮浦池全体が広葉樹で囲まれており、広葉樹の葉が年々堆積し、それがヘドロになり、夏場になるとかなり臭くなります。ヘドロが多くなると水中の酸素の濃度が低下し、魚が死んでしまうこともあり、今年ヘドロを取り除いてもらい、良かったと思います。においの原因が減り、魚にとっても環境がよくなり住みやすくなったのではないかと思います。

▽市が工事を行うにあたって、自然科学部としてどのようなことを要望しましたか？

樋口君 とにかく自然の形を残してもらいたいということを要望しました。

坂野君 コンクリートで固めないことを要望し、木を使用して工事をしていただいたので、自然に近い状態を残してもらえたと思います。

▽工事が終わってからは、どのようなことを調査していきたいと考えますか？

坂野君 工事前後の宮浦池を比較して、何が変わったのか、逆にどういうところが同じ状態で残っているのかを調査してみたいです。新たな発見もあるのではないかと思います。

樋口君 宮浦池は、冬になると渡り鳥の

休み場になっていましたが、工事をしたことによって変化があるのか見ていきたいです。

▽宮浦池の自然を保

全していくために、市民に望むことは？

坂野君 ごみの放置が一番の問題です。釣り糸が鳥に引っかかり死んでしまったところも見てきました。宮浦池に限らず、ごみを捨ててはいけないと思います。「自然を残す」という意識を、もう少し持つてほしいと思います。

林君 近くの新池では、釣り糸が木に絡んで食い込んでいました。マナーを守ってほしいと思います。

坂野君 ほかの池は外来魚の影響で、生態系が崩れており、宮浦池のような自然が残り、外来魚がない池は本当に貴重だということを知ってもらいたいですね。



▲前列左から林 大樹君 (1年)、坂野 秀君 (2年)、後列左から樋口直大君 (2年)、山田雄太君 (2年)